

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校

2019年度（令和元年度） 第2回教育課程編成委員会

開催予定日時	令和2年3月23日（月）15:00～16:30	
開催予定場所	尾道福祉専門学校 207 教室	
開催形式の変更	*新型コロナウイルス感染者が市内で発生したことにより、急遽、招集をとりやめ、会議資料を送付し電話でのご意見を伺う形式に変更する。	
出席者予定	委員（外部）	委員（内部）
	久保田トミ子様 久保田あけみ様 川原奨二様	校長 工藤博道 教務主任 豊田美絵 記録 金子清美
協議の内容		
1. はじめに	<p>新高卒者等の入学状況については、2019年度、1名の韓国からの留学生あり。新卒者計17名、一般1名、委託生6名であった。2020年度は、新卒者計17名、一般1名、委託生9名の予定である。新卒高校生の伸びについては、進学より就職希望者増加の傾向があると考えられる。</p>	
2. 卒業生の状況	<p>2019年度卒業生11名である。就職先地域は、尾道市、福山市、東広島市である。種別は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、小規模多機能事業所、障害福祉サービスである。1名、大学編入した。</p>	
3. 2020年度カリキュラム	<p>〈科目・講師の変更〉人間と社会の分野から、2019年度までの「現代社会と家族」の科目から、2020年度「総合介護福祉論」の科目に変更する。この科目の目的は、2年生後期の総まとめの時期に、福祉の理念、社会制度、家族関係、多職種連携、こころとからだのしくみの分野等を踏まえ、生活支援技術を組み立て、就職後の実践につなげることにある。</p> <p>2019年度「ボランティア論」の科目名を2020年度「地域福祉実践論」に変更する。この理由は、有償で働く人への講師依頼や、2019年に災害の講義で尾道市の職員に講師依頼を今後もおこなう時に、ボランティアにある無償のイメージがあると依頼しにくいところが実際にあり、講師の幅を広げていきたいからである。</p> <p>〈授業の組み立て〉生活支援技術の時間数には変更ないが、2019年度までは、1年生の前期週1コマ、後期に生活支援技術Ⅲを週2コマ、2年生の前期に週1コマしていたところを、2020年度、2年生の前期に週1コマ分を1年の前期に移動して、1年生の前期週2コマ、後期に生活支援技術Ⅲを週2コマと1年生での実技の充実を図る目的である。</p>	

	<p>〈介護実習〉1年次の介護実習では、実習の前に1日実習をおき、そこで実習のオリエンテーションも含め、現場の雰囲気慣れ、実習で学びたい目標のイメージをもつことを目的にしている。</p> <p>〈担当教員〉専任教員の変更、担当科目の変更が一部あり、科目間の連携を図るようにシラバス会議や会議での学生状況の把握などを行って細やかな指導が行えるようにする。</p>
4. 外国人留学生について	<p>学校生活においては、1年次を通して、非常に優秀な成績であった。</p> <p>日本語でのコミュニケーションは、方言には困った面があったが、日常的には支障がほとんどなかった。介護実習においても、日本語でのコミュニケーションに本人なりの苦労はあると思うが、そのことが利用者とのコミュニケーションの支障になったり、実習自体が困難というようなことは全くなかった。非常に温厚で人当たりがよく、かえって、好感がもたれ、常に熱心に取り組む姿が見られている。</p>
5. 実務者研修	<p>2019年度の受講人数は、22名であった。尾道市14名、三原市4名、福山市4名である。受講生の勤務先は、特別養護老人ホーム6名、グループホーム5名が多かった。正社員が14名であり、受講の目的として、処遇の向上に役立つことを挙げている人が15名であった。受講後の感想では、学習内容等、満足しているという人が多かった。</p>

以上の内容により、各委員へ郵送の上意見を伺う。総合介護福祉論、地域福祉実践論の科目名等の変更について、再度説明してほしいという要望があったため、次回の会議で、改めて説明することで了承を得る。